

## 第35期 年次報告書

2010.7.1 →→→ 2011.6.30

特集 中期経営計画「Next Stage 2016」



### 株主の皆様へ

**業績は過去最高を更新。中期経営計画を策定し、  
よりグローバルな医療機器企業を目指して  
新たなスタートを切りました。**

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。  
当社の第35期年次報告書をお届けするにあたり、はじめに本年3月に発生した  
東日本大震災により被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げます。

#### ！売上高、営業・経常・当期純利益とも過去最高を更新

2011年6月期の連結業績につきましては、売上高は急速な円高ドル安による影響は受けたものの、メディカル事業、デバイス事業ともに好調に推移し、前年同期比4.4%増の16,007百万円、営業利益は開発強化に伴う研究開発費の増加などがあつたものの、好調な売上に支えられ、同10.9%増の3,247百万円となりました。

また、経常利益は為替差損や支払利息の減少などにより、同13.6%増の3,164百万円、当期純利益は投資有価証券評価損が増加したものの減損損失の減少などにより、同44.3%増の2,161百万円となりました。  
以上の結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高を更新することができました。

なお、本年3月に発生した東日本大震災により、日本経済全体が大きな影響を受け、また東北地方を中心とする医療機関も被災するなどしましたが、当社グループにおいては、この震災による大きな被害は無く、業績に与える影響も軽微でした。

#### ！中期経営計画「Next Stage 2016」を策定

当社グループは本年7月から、さらなる成長を目指して、新たな中期経営計画である「Next Stage 2016」をスタートいたしました。

今回の年次報告書では、この「Next Stage 2016」の概要と重点施策をわかり易くお伝えする内容としております。この年次報告書が、当社グループに対するご理解を深めていただく一助になれば、幸いです。

株主の皆様におかれましては、従来にも増してご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2011年9月



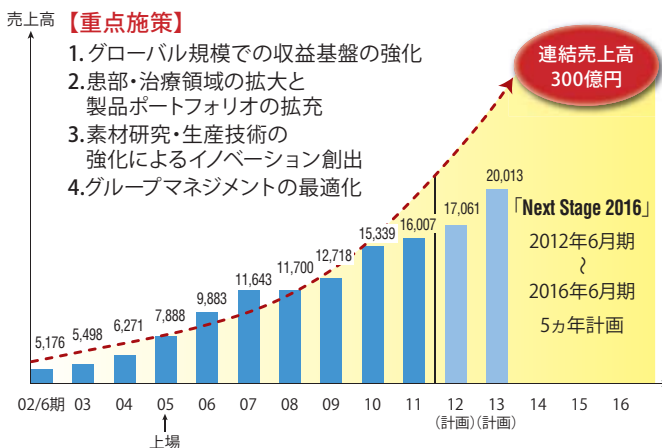
代表取締役社長

畑田 昌彦

## 中期経営計画「Next Stage 2016」

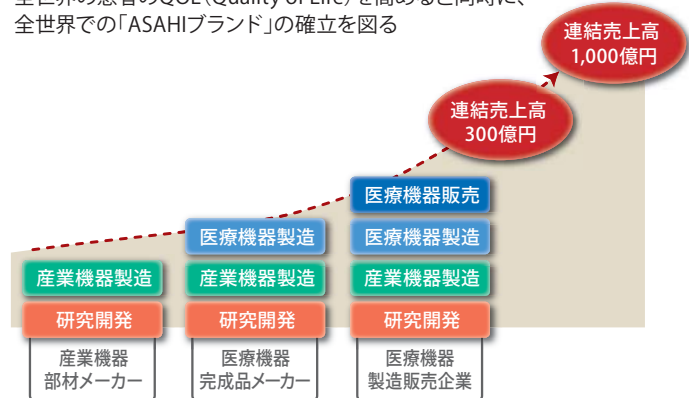
当社グループは、2012年6月期から2016年6月期までの5年間における中期経営計画「Next Stage 2016」を策定しました。本計画では、「低侵襲治療\*製品を機軸とし、開発から製造・販売までトータルサポートできるグローバル医療機器企業へ」をテーマとして、従来の医療機器「製造」に加えて、医療機器「販売」による収益拡大を図り、2016年6月期には、連結売上高300億円を達成することを目標とし、さらにその先、1,000億円企業になることを目指しています。

### 中期経営計画「Next Stage 2016」



### 長期経営ビジョン

低侵襲治療製品の普及を日本から世界へ積極的に発信し、全世界の患者のQOL (Quality of Life) を高めると同時に、全世界での「ASAHIブランド」の確立を図る

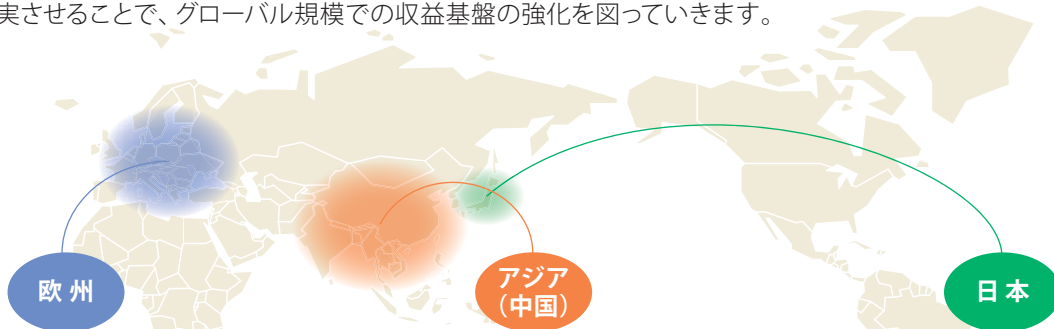


\*低侵襲治療/患者の精神的・身体的ダメージを最小限に抑えるために、開胸・開腹手術をすること無く、大腿や手首から血管を通じて行う、傷口や痛みが少ない治療のことです。

重点施策

## ① グローバル規模での収益基盤の強化

当社グループは現在世界85の国と地域へ製品を供給しています。当社グループの製品が使用される血管内疾患の症例数は、今後もグローバル規模にて益々拡大することが予測されます。こうした中、それぞれの地域において販売・マーケティングの機能をより一層充実させることで、グローバル規模での収益基盤の強化を図っていきます。



### 1社との独占販売契約から各国の現地代理店への切替えにより市場シェアを拡大

当社が開発・製造するPTCAガイドワイヤーの販売は、米国大手アボット ラボラトリーズ社との独占販売契約に基づいて行われてきましたが、2011年7月より当社のEU支店が現地に密着した複数の代理店を通じて販売を行う体制に変更しました。これにより、総合的な製品供給が可能となり、ラインナップ拡充によるシナジー効果を発揮して、「ASAHIブランド」製品のさらなる市場シェア拡大を目指します。

### 急速な拡大が続く中国市場における販売体制を強化

アジア圏においては成長が著しい中国市場を最重要視しています。2012年1月に北京駐在所を現地法人に格上げし、2012年7月には上海駐在所も設立する予定です。現地の代理店に密着したバックアップ体制を充実させることにより、急速な拡大が続く中国市場において、さらなる市場シェアの拡大を目指します。

### 主力製品PTCAガイドワイヤーの直販化により収益構造を強化

PTCAガイドワイヤーの国内販売は、大手販売代理店を通じて行われてきましたが、2012年2月より当社グループの連結子会社朝日インテックセールス(株)\*が病院などに対して直接販売する体制に変更する予定です。これにより、納入単価・数量のアップを通して、収益構造の強化を図ります。

\*朝日インテックセールス(株)は、既に貫通カテーテル「ASAHI Corsair(コルセア)」やPTCAバルーンカテーテルなどの製品を病院などに直接販売し、国内1,200施設・病院への販売ネットワークを構築しています。

重点施策

## 2 患部・治療領域の拡大と製品ポートフォリオの拡充

### 循環器系領域から末梢・腹部・脳血管系領域への製品展開

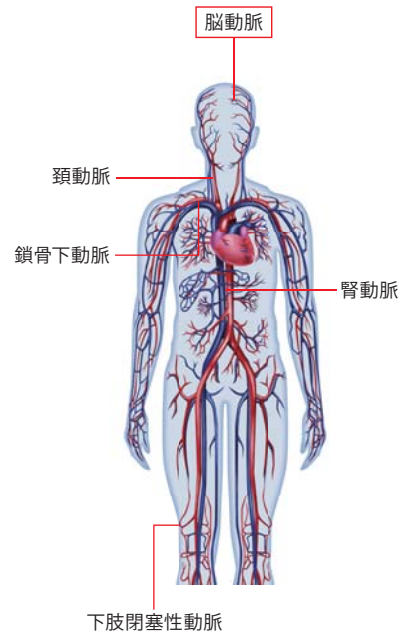
当社グループの製品は、現在、循環器系領域を主力としていますが、対象とする患部領域を循環器系領域以外(末梢・腹部・脳血管系領域など)に拡大していきます。

例えば、脳血管系領域に関しては、2010年1月に当社初となる脳血管内治療用ガイドワイヤー「ASAHI CHIKAI」\*を国内発売し、1年間で市場シェア35%を獲得するまでに急伸しています。今後はそうした新技術を含めて、国内における開発・販売の成功事例を積極的に海外展開していきます。

### PTCAガイドワイヤーに次ぐ第二の主力製品を確立

研究開発型企業として競争力の高い製品群を投入していきます。貫通カテーテル「ASAHI Corsair」\*などに代表される独創的な製品開発に加え、今後は当社グループが有する高度な素材加工技術を融合・複合化し、PTCAバルーンカテーテルやPTCAガイディングカテーテルといった製品群を、PTCAガイドワイヤーに次ぐ主力製品として育成します。

\*「ASAHI CHIKAI」および「ASAHI Corsair」の概要については技術・製品紹介をご参照ください。



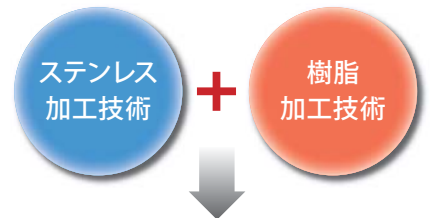
重点施策

## 3 素材研究・生産技術の強化によるイノベーション創出

基盤技術の強化により、素材から製品までの一貫生産体制の優位性をさらに高めていきます。グループ内の連携を加速させ、当社が創業以来培ってきた「ステンレス加工技術」と、2010年1月より新たに連結子会社となった朝日インテック ジーマ(株)の「樹脂加工技術」を融合し、さらなる競争力の強化に努力していきます。

また今後も、グローバル競争に勝つために、技術提携やM&Aなどを駆使した外部からの新技術導入を含め、有力パートナーとの戦略的提携を推進していきます。

朝日インテック株式会社 朝日インテック ジーマ株式会社



世界に向けて「Only One」技術や「Number One」製品を供給

重点施策

## 4 グループマネジメントの最適化

当社グループでは、日本において研究開発・試作に特化する一方、タイとベトナムに主力工場を擁し、量産品の生産は海外工場が担っています。今後はより一層の高収益化を目指して、各生産拠点から全世界の需要先への直送体制を図るなど、原材料の調達から製造、流通、販売までの一連の流れを効率的に管理し、サプライチェーン全体の動きを最適化する体制を構築していきます。



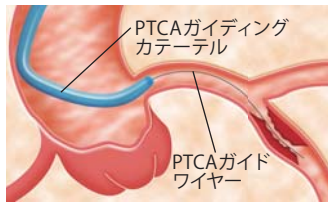
タイ工場 (ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD.)



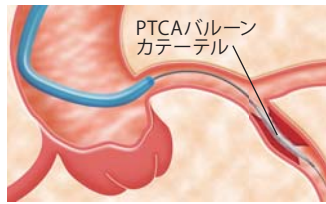
ベトナム工場 (ASAHI INTECC HANOI CO., LTD.)

## 技術・製品紹介

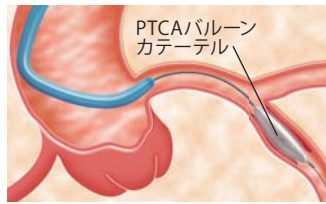
### ▶ 基本的なPTCA\*手技の流れ



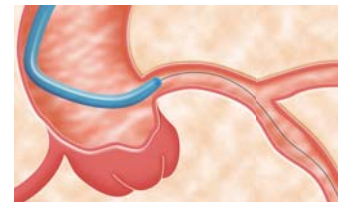
**①PTCAガイドワイヤー通過**  
PTCAガイドワイヤーと呼ばれる細い管を血管に挿入し、その中にPTCAガイドワイヤーを通します。



**②PTCAバルーンカテーテル挿入**  
PTCAガイドワイヤーに沿って、PTCAバルーンカテーテルを血管の狭くなっている部分まで進めます。



**③PTCAバルーンカテーテル拡張**  
バルーン(風船)をふくらませ、内側から血管を押し広げます。



**④PTCAバルーンカテーテル抜去**  
狭くなっていた部分が広げられ、血管の流れがよくなります。

PTCA治療は、通常の外科手術と比較し、患者様への身体的、精神的、経済的負担が軽減される利点があります。

\*PTCA / 経皮的冠動脈形成術のことで、狭心症や心筋梗塞の治療を行うための治療法です。

### ▶ 貫通カテーテル「ASAHI Corsair (コルセア)」

「ASAHI Corsair」は、冠動脈のPTCA治療の中でも、主に慢性完全閉塞(CTO)\*などの高度狭窄病変において、ガイドワイヤーの操作性を維持することを目的に、当社独自の設計と技術によって開発・製造された治療補助用具です。「ASAHI Corsair」の持つ高い通過性能は、血管が動脈硬化により詰まった状態を治療する手術の成功率が向上するための新しい手技方法として注目されています。

\*慢性完全閉塞(CTO: Chronic Total Occlusion) / 長期間完全に閉塞した状態の病変のこと。従来は、このような病変は外科手術(バイパス手術)の領域でしたが、当社がCTOにも使用可能なPTCAガイドワイヤーの開発に成功したことから、現在では、国内においてはPTCA治療(循環器系における低侵襲治療)が主流となっています。



### ▶ 脳血管内治療用ガイドワイヤー「ASAHI CHIKAI」

「ASAHI CHIKAI」は、当社グループが循環器分野で長年培ってきたガイドワイヤーの設計技術を駆使した、当社初の脳血管内治療用ガイドワイヤーです。「ASAHI CHIKAI」は、当社独自の「トルク技術\*」に加え、脳血管治療に適した先端柔軟性と高いデバイス追従性を兼ね備えた製品で、新たな患部領域である脳血管内治療の市場シェアの獲得を目指します。

\*トルク技術 / 当社独自の加工設備と高い技術力を駆使し、ワイヤーやワイヤーロープに高度な回転追従性を持たせる技術のことです。

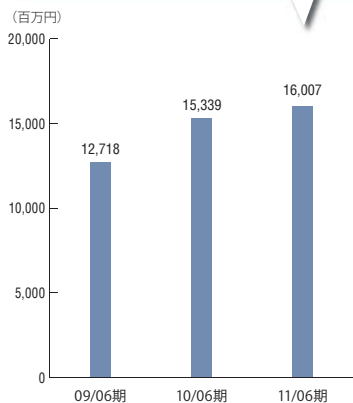


# 連結財務データ

## 売上高

売上高 前年同期比**4.4%**増

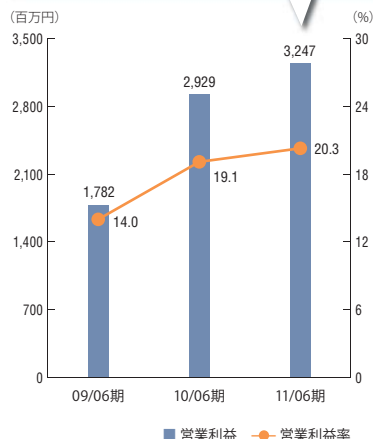
急速な円高ドル安によるダメージは受けたものの、メディカル事業とデバイス事業ともに好調に推移し、過去最高の売上高となりました。



## 営業利益／営業利益率

営業利益 同**10.9%**増

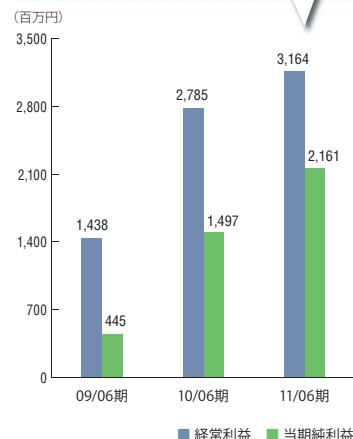
開発強化に伴う研究開発費用と朝日インテック ジーマ(株)の連結子会社化による費用の増加はあったものの、好調な売上に支えられ、過去最高の営業利益となりました。



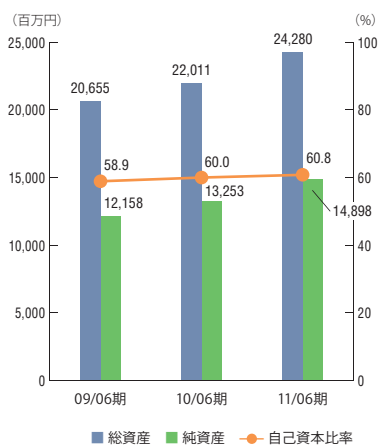
## 経常利益／当期純利益

経常利益 同**13.6%**増 当期純利益 同**44.3%**増

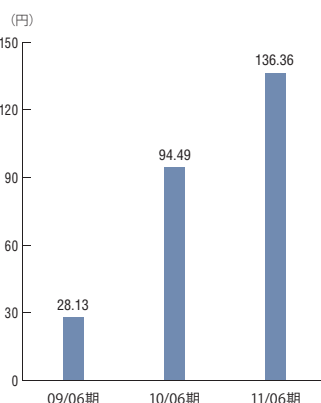
為替差損や支払利息が減少したため、過去最高の経常利益となりました。また、特別損失として、投資有価証券評価損が増加したものの、減損損失の計上がなかったことから、当期純利益も過去最高となりました。



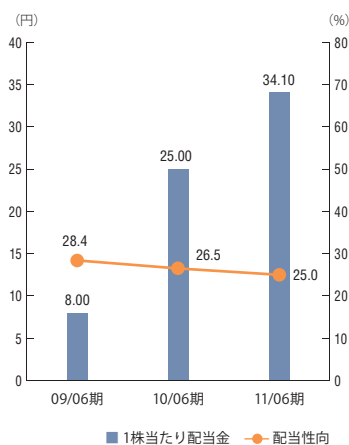
## 総資産／純資産／自己資本比率



## 1株当たり当期純利益

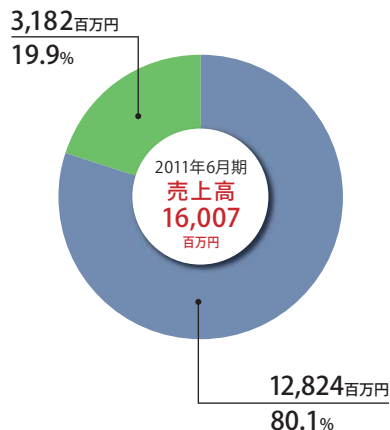


## 1株当たり配当金／配当性向



## セグメント別売上高

▶%は売上高構成比



### ●メディカル事業

メディカル事業では、売上高の大部分を占める自社ブランドの治療用カテーテル類の売上高が、特に国内市場を中心として、順調に推移しました。国内では、主力製品のPTCAガイドワイヤーが引き続き「SION」シリーズを中心に好調に推移したほか、2010年1月より本格的に販売開始した貫通カテーテル「ASAHI Corsair」が大きく貢献したこと、また循環器系以外の領域では脳血管系領域や末梢血管系領域などの製品群も好調に推移しました。海外では、中国市場への売上が順調に推移したことや、米国中心に「ASAHI Corsair」の受注が増加したものの、為替の影響を受け、売上高はほぼ横ばいに推移しました。OEM供給品は、海外取引が減少したものの、国内を中心に大手医療機器企業への循環器系検査用カテーテル製品や内視鏡関連製品などの供給が増えたことから、売上高は増加しました。以上の結果、メディカル事業の売上高は前年同期比4.2%増の12,824百万円となりました。

### ●デバイス事業

デバイス事業では、医療機器分野と産業機器分野での部材を取り扱っています。医療機器分野では、米国企業向けの循環器治療用関連部品の売上が減少傾向にあったものの、2010年1月より朝日インテック ジーマ(株)が連結子会社になったことや、米国向けの腹部治療用や耳鼻咽喉科関係の医療部材が増加するなど、売上高は増加しました。産業機器分野では、国内外の家電エアコン用ローブや海外向けのベビーカー用部品、さらには国内向けの環境対応車への部材供給などが増加したものの、ドル安などが替動向の変化や、海外向けのOA機器製品や国内向けの磯釣用の釣り糸などのレジャー関係が減少するなど、売上高は減少しました。以上の結果、デバイス事業の売上高は前年同期比4.8%増の3,182百万円となりました。

# 会社概要・株式情報・株主メモ

## 会社概要 (2011年6月30日現在)

商号	朝日インテック株式会社 (ASAHI INTECC CO., LTD.)
設立	1976(昭和51)年7月8日
資本金	41億6,795万円
従業員数	連結 2,855名 / 単体 382名
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第二部) 名古屋証券取引所(市場第二部) 大阪証券取引所(JASDAQ市場)
主な事業内容	①循環器系疾患の治療および診断分野においての 低侵襲治療製品(治療用カテーテルシステム、 検査用カテーテルシステム)の開発・製造・販売 ②消化器分野、循環器分野、透析分野、放射線分野 における低侵襲治療製品および医療部材の開発・ 製造・販売およびOEM供給 ③産業機器用極細ステンレスワイヤーロープの開発・ 製造・販売

## 役員 (2011年6月30日現在)

代表取締役会長	宮田 尚彦
代表取締役社長	宮田 昌彦
専務取締役	竹内 謙次
常務取締役	福井 芳彦
常務取締役	宮田 憲次
取締役	湯川 一平
取締役	加藤 忠和
常勤監査役	渡辺 行祥
監査役	佐藤 昌巳
監査役	大林 敏治

(注) 監査役佐藤昌巳、大林敏治は、社外監査役であります。

## 事業所

### ▶国内事業所

営業拠点	東京	東京都新宿区
	名古屋	愛知県瀬戸市
	大阪	大阪府和泉市
メディカル事業	瀬戸工場	愛知県瀬戸市
大阪R&Dセンター		大阪府和泉市

### ▶海外事業所

香港支店	中国 香港
EU支店	オランダ アムステルダム
シンガポール支店	シンガポール ビシャン地区
北京駐在所	中国 北京市朝陽区

### ▶子会社

ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD.	タイランド パトゥムタニ県
ASAHI INTECC HANOI CO., LTD.	ベトナム ハノイ市
ASAHI INTECC USA, INC.	アメリカ合衆国 カリフォルニア州
フィルメック株式会社	愛知県名古屋市
朝日インテックJセールス株式会社	東京都新宿区
朝日インテックジーマ株式会社	静岡県袋井市

## 株式情報

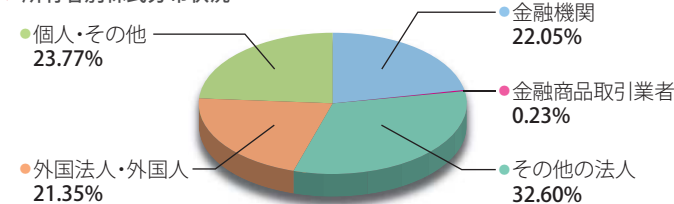
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	15,852,600株(自己株式230株を含む)
株主数	2,619名

大株主 (2011年6月30日現在)

株主名	持株数(株)	株主比率(%)
アイシーエスピー(有)	2,273,000	14.33
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,218,900	7.68
宮田昌彦	768,600	4.84
セント・ジュード・メディカル(株)(旧(株)ゲッツプラザーズ)	708,000	4.46
宮田憲次	653,500	4.12
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	637,900	4.02
(株)ハイレックスコーポレーション (旧日本ケーブルシステム(株))	600,000	3.78
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシーリノーザントラスト ガンジー アイリッシュクライアーツ	446,690	2.81
(株)ホギメディカル	425,800	2.68
朝日インテック社員持株会	338,020	2.13

(注) 持株比率は自己株式(230株)を控除して計算しております。

### ▶所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
期末配当金受領株主確定日	6月30日
中間配当金受領株主確定日	12月31日
公告方法	当社ホームページ <a href="http://www.asahi-intecc.co.jp/">http://www.asahi-intecc.co.jp/</a> に掲載します。 但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711(通話料無料)
-----------------------------------	--

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。